

会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部



教育学部創立 50周年に向けて

東北大学教育学部同窓会
仙台支部長 雪江 美久

同窓会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。バブル経済崩壊後のわが国は、以前にも増して大変困難な問題を抱え込むこととなり、一刻も早い問題の解決が求められているところであります。

同窓会員の多くの皆様方が直接、間接に関わっておられる教育界もその例外ではなく、否むしろ少子化をはじめとする現代社会の動きに起因する厳しい問題への対応を迫られ、何かとご苦労されていることとご推察いたします。マスコミ等の報道で既にご存知の方も多いかと思いますが、母校教育学部は、新しい時代的要請にこたえていくために学部改革をすすめ、本年4月からすっかりその姿をかえてスタートしました。昭和40年の「教員養成課程分離」に並ぶ大改革と思われまます。

このような時に、来年度、母校教育学部が創立50周年を迎えることになりました。北六番丁時代から片平丁、川内時代と振り返ってみるとき、会員の皆様には、この半世紀に及ぶ歴史にそれぞれ掛け替えのない思い出の頁を綴られておられることと思いますが、共にこの記念すべき機会を迎えることを祝福し、母校のますますの発展を祈願したいと考えております。

つきましては、同窓会支部としても何らかのお祝いをと考えており、教育学部側とも連絡をとりながら、役員会等を中心にして検討し、皆様方にご提案したいと思っています。その折には一人で

も多くの皆様のご協力をいただけますようお願い申し上げます。本年度も来る11月14日(土)に「パレスへいあん」で支部総会が開催される予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第 19 回 同窓会仙台支部総会のご案内

初秋の候、同窓生各位にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記により仙台支部総会を開催いたします。今年度は、東北大学 村井憲男教授をお招きし、ご講話をいただくことになりました。

ご多用の折とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成10年11月14日(土)
午後2時より
- 2 会 場 パレスへいあん(265-5111)
(仙台市広瀬通り東五番丁角)
- 3 内 容 (1)仙台支部総会
(※13:30 受付開始)
(2)講演会 14:45 ~
講師 東北大学 村井憲男 教授
演題 「子どもの疲れと生活のリズム」
(3)懇親会 16:00 ~ (予定)
- 4 会 費 6,000円当日受付にて申し受けます。
- 5 申込み 同封のはがきでお願いします。
- 6 締切日 10月31日(土) 取消は11月5日迄

『同窓会誕生をめぐる エト・セトラ』

顧問(初代支部長)仙台市長 藤井 黎

東北大学教育学部同窓会の発足は、学部創立30周年と軌を一にする。川内記念講堂で挙行された“東北大学教育学部創立30周年記念式典”は“東北大学教育学部同窓会設立第一回総会”との二枚看板のもとに企画されたからである。昭和54年の5・6月頃の日曜日のことであつた。正確な月日確かめる余力は“今は”ないが、その年の1月1日付で、“資質不適正なり”と自ら任じて逃げ回っていた私に、仙台市教育長の辞令が強引に^{おはち}回された昭和54年という年だけは確かであるし、それを実証するための忘れ難いハプニングがある。

当日、私は一人の同窓生として客席に居住まいを正していた。プログラムには開会、学部長式辞、表彰に続いて学長、知事、市長等の来賓祝辞に始まり閉会に至る恒例の次第が予定されていた。式典は定刻11時に始まり、順調に運んでいったが、祝辞を述べる筈の仙台市長代理の姿が一向に見える気配がない。不運にしてその瞬間、司会進行役の塚本教授の視線が私に向けられ、代役の指名を受けてしまったのである。男子たるがゆえに表向き慌てふためく素振りミジンもなく壇上に立ち、「市長の代理が見える気配がないので、僭越ながら市長の代理の代理としてご祝辞を申し上げる」と切り出した途端、厳粛たるべき会場の笑いを誘う始末となった。——以後式典も同窓会設立総会も、もちろんその後の“懇親会”も緊張感から解放されたことはいうまでもない。

仙台支部設立の話があつたのは、それから数か月後のことだったろうか。第1回生の精鋭(三浦・岩淵・丸谷・志村・富塚・川井らの諸氏)の精力的な奉仕によって短時日のうちに発会を迎えることができた。第1回は仙台市民会館地下展示ホールに百名を越す同窓が集う大盛会だった。

市長の代理の代理が、今は正真正銘の市長であることに奇異の感を禁じ得ない。

教育学部学科改組

教育学部長 不破 和彦

概算要求していましたが教育学部の学科改組が平成10年度予算で承認され、この4月から実施に移されました。

昭和43年に教員養成課程が廃止されてからは、本学部は全国でも数少ない教育に関する教育・研究の専門組織として、今日に至っています。

この度、本学部が創設されてからほぼ半世紀にわたって築いてきました教育・研究の成果を発展的に継承しながら、あわせて21世紀に向け変動する世界社会の中で教育が直面する複雑な課題および教育に対する多様な役割期待に、適切に対応していく必要から学部の学科改組に着手しました。

学科改組の骨子は以下になります。

(1)「教育学科」ならびに「教育心理学科」の学科区分を廃して、「教育学科」の1大学科にする。
(2)従来の15小講座を再編し、新たに「人間形成論講座」「教育政策科学講座」「成人継続教育論講座」「教授・学習科学講座」そして「人間発達臨床科学講座」の5大講座とする。

この新しい教育・研究組織を基盤に、全面的に再構成したカリキュラム、柔軟な履修内容と履修方法の導入などによって、21世紀にむけ社会的な需要の高まりが期待される広範な分野での専門的な教育指導者・援助者の養成に努めていくことを課題としています。

また、これまで以上に先駆的かつ独創的な研究に取り組み、教育に関する研究の日本に留まらず、世界の中枢機関の仲間入りを目指していく所存です。

来年は教育学部が創設されて50年を迎えることになります。本学部が更なる発展を遂げる上で必要な基盤は、今回の学科改組によって用意されたと考えていますが、引き続き大学院の整備・拡充にも取り組んでいます。

学生寮とデカンショ節

顧問(三代支部長) 多田 滋

教育学部入学と同時に尚心寮に入り、居心地がいいので卒業までご厄介になりました。大抵1室に5~6人ずつ異学年混在で寝食を共にしていましたが、同室に新入生の鈴鴨清美君などもおりました。終戦直後なものですから、楽しみが一番は目出しをして酒や肉を買い、手料理を肴に全員が車座になってコンパすることでした。

そんな時よく歌われた歌がデカンショ節でした。最初は有名な「……あとの半年あ寝て暮らす」から「……お神酒あがらぬ神はない」ぐらいまでは全員で合唱しますが、あとは皆の知らない文句のものを順番に披露するのが常道でした。何せ数人の車座なのですぐ一巡してきます。苦しくなると即興で歌詞を作って歌ったりしましたが、傑作が出ると、茶碗酒のお代わりのご褒美が出ました。

この歌は藩政時代前から丹波篠山地方で歌われていた古謡「みつ唄」が元ですが、明治29年に元藩主青山忠允子爵が千葉の館山で同宿した旧制第一高等学校の水泳部員鹽谷温(後の東大教授)ら約60人に請われて伝授したものでした。そのときの囃し言葉は「デコンショ」でしたが、これを一高の学生寮に持ち帰ってコンパやストーム用の歌として歌い踊っているうちに、どうも田舎くさいというわけで、頭の良いのが、哲学者のデカルト、カント、ショウペンハウエルの3人の頭をくっつけ「デカンショ」と改造したものでした。

その後、明治時代後期に全国に設置された旧制高等学校同士の対抗試合を通じて、デカンショ節はあっという間に全国に伝播しました。その経緯は昭和33年に80歳の鹽谷温氏が館山市長と対談した記録に残り、館山市にはデカンショ節発祥の地の石碑も建っています。しかし、個室になった現在の学生寮では歌われるわけがありません。

よき時代に学生寮で佳き友との交流があったことが、私の最大の財産だと思っています。

男はいい女に惚れる

副支部長 栞澤 怜

東北大の同窓会は、まじめな団体であるから男女の問題について論ずる機会はありません。酒の二次会の席ならともかく、男女平等思想の徹底している紳士諸氏の間では、男女の性差について語られることは少ないのではないだろうか。

不謹慎を覚悟で今回は肩のこらない男女の心理について考察してみたい。男女の心理を見事に突いている古今東西の文学作品など小生にとっては話のネタを仕入れるための必修の虎の巻だ。ここでは男女の恋愛の違いについて触れてみたい。

まず経験から言えば、女に迫られると逃げたくなり、好きな女が逃げようとする必死に追いかける傾向があった。積極的な女にはどうも弱い。次に、女は好きな男性には好かれようと従順になる傾向があるのに対し、男は、好きな女にはなぜか悪態をつけて嫌われる傾向がある。小生も好きな人がいたが悪態ばかりついたので振られてばかりいたことを思い出す。心理学者の島田さんは、男女の微妙な違いを的確にとらえている。

例えば、「男はいい女に惚れるが女はだめ目な男に惚れて苦労している。」世間によくあるケースだ。「女は、失恋を懐かしみ男は失恋を苦々しく思い出す。」「女はすれ違うアベックの同性が気になり男は異性が気になる。」「女は、好きな男に失望して、初めて浮気をするが、男は、好きな女がいても浮気をする。」「女は、横からの説得に弱く、男は正面からの説得に弱い。」「女は愛し始めた男に嘘を言い、男は愛さなくなった女に嘘を言う。」「女は、いったん親密になるとなんでも話せる間柄になりたいと思い、男は何も話さなくても分かる間柄になりたいと思う。」中には、思い当たる節があり思わず苦笑してしまう。男女平等といっても性差については如何ともしがたいことなのだ。男女関係とは本当に不可思議である。

仙台支部役員名簿

(平成9.12～平成11.11)

顧問	藤井 黎	24三浦 修一
	25多田 滋	26佐々木一洋
	28永野 昌一	
支部長	31雪江 美久	
副支部長	31柘澤 怜	32佐々木亀三男
	32菅野 政夫	
参 与	24岩淵昌次郎	24富塚 英雄
	24志村 元一	26寺田 晃
	29石森 幸子	
理 事	24小野 春夫	川井 善夫
	丸谷慶二郎	
	25高橋 公正	菊池 康雄
	静田 一	
	26菊地 篤子	三橋 亮一
	27岡崎 忠	青木 敏浩
	28小関 幸生	古澤 良一
	29青木 寛敏	星 博
	30小野 正義	小畑 博之
	31八巻 康雄	今野 健
	菅原 教雄	
	32久保田 明	砂金 信男
	33長田かつよ	金岡 昭房
	34菱沼安太郎	一条 紀久
	35泉 豊	伊藤 律郎
	36正木 競	阿部 琢也
	浅野 信廣	
	37菊田 泰丸	小倉 英樹
	関口 隆	
	38熊谷 洋	櫻井 正幸
	39大竹 牧夫	軍司 啓
監 事	25佐藤 寿郎	宮腰 英一
大学関係理事	渡部 信一	
理事事務局	35伊藤 昭	38佐藤 誠
	39大浪 榮一	
事務会計	34大庭 数江	37千葉 雅修
	39郡山 慶子	

事務局だより

会員の皆様には、日ごろ多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年度より、下記の4委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長 31柘澤 怜 副委員長 31今野 健
25静田 一 28古澤 良一 34一条 紀久
36阿部琢郎 37菊田泰丸

名簿作成委員会

委員長 29小野 正義 副委員長 30菅原 教雄
25高橋 公正 29青木 寛敏 34金岡 昭房
35泉 豊 38熊谷 洋

会報発行委員会

委員長 25菊池 康雄 副委員長 32佐々木亀三男
26菊地 篤子 27横山 卓夫 32久保田 明
34菱沼安太郎 39軍司 啓

会計委員会

委員長 29石森 幸子 副委員長 34大庭 数江
31八巻 康雄 36正木 競
37千葉 雅修 39郡山 慶子

○会報第2号をお届けいたします。ご多用の中、ご執筆いただきました先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

○総会のご案内をいたしました。多くの会員の方々とお会いできますことを楽しみにしております。

○来年は東北大学教育学部同窓会発足50周年の節目の年に当たります。仙台支部としての協力体制構築等について今後話し合っていくこととなります。

○会の運営等についてのお問い合わせは事務局へ。
事務局 仙台市立秋保小学校 伊藤 昭

〒982-0243 仙台市太白区秋保町長袋字町15

TFL・FAX 022-399-2265